

学校编码：10384

分类号_____密级_____

学号：12220111152579

UDC_____

厦 門 大 学

硕 士 学 位 论 文

关于日语中“猫”惯用句的研究
——从认知语义学的视角出发

日本語における猫の慣用句に関する一考察
——認知意味論の視点からアプローチする

卢 骁

指导教师姓名：林娟娟 教授

专 业 名 称：日语语言文学

论文提交日期：2014 年 4 月

论文答辩日期：2014 年 月

学位授予日期：2014 年 月

答辩委员会主席：_____
评 阅 人：_____

2014 年 月

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为()课题(组)的研究成果,获得()课题(组)经费或实验室的资助,在()实验室完成。(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

年 月 日

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

（ ） 1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

（ ☒ ） 2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日

要 旨

本研究は日本語における猫の慣用句に対する認知意味論に基づく考察である。猫の慣用句に対し、その字義通りの意味から慣用的意味への意味拡張について詳細な分析を行うことを通して、慣用句の字義通りの意味と慣用的意味はメタファー、メトニミーによって有契的に結び付けられることを裏付ける。更に、猫の慣用句の意味の成立に関与する意味拡張の仕組みを検討し、それらの意味拡張の仕組みから窺える日本人の人間自身、且つ外部世界に対する捉え方をも探してみたい。

本研究の構成は以下の通りである。

第1章では、慣用句に関する先行研究を取り上げ、これまでどのような問題が扱われてきたかを見た上で、本研究の立場を明示する。そして、本研究の研究対象、研究方法、研究意義を述べる。

第2章では、認知意味論におけるメタファー理論を基にし、メタファーを介して意味が拡張した猫の慣用句を、メタファーを成立させる基盤の一つである「類似性」を分類の基準に、＜五感の類似性に基づく場合＞、＜性質の類似性に基づく場合＞、＜推論の類似性に基づく場合＞、＜構造の類似性に基づく場合＞に大別する。そして、それぞれ実例の分析を行いつつ、慣用句の字義通りの意味から慣用的意味へと意味拡張するプロセスを解明する。また、意味が拡張している際に、具体的にどのようなメタファーの仕組みが関与しているかを論じる。

第3章では、認知意味論におけるメトニミー理論を踏まえ、メトニミーを介して意味が拡張した猫の慣用句を、メトニミーが成立する基盤によって、＜時間的隣接関係に基づく場合＞、＜原因—結果の関係に基づく場合＞、＜部分—全体の関係に基づく場合＞に分類する。それぞれ代表的な例文を挙げながら、慣用句の字義通りの意味から慣用的意味への意味拡張を明らかにすると同時に、その意味成立に関わる意味拡張の仕組みを考察する。

第4章では、本研究の結論を述べる。猫の慣用句の意味の成立がメタファー、

メトニミーによって動機付けられており、その上、その字義通りの意味と慣用的意味の関係をメタファー、メトニミーに基づく意味拡張として捉えることができる。また、猫の慣用句の意味成立に関わる意味拡張の仕組みが示しているように、日本人は猫の外見、性質、行為、本能、更に人間の猫にかけた行動、鼠との関係などを通して、人間自身の生理、性格、行為、能力、交際など人間という存在の様々な側面を捉えている。そのみならず、効果の有無、可能性など明確な輪郭を持たず、直接に捉えることのできない抽象的な概念、更に物事の性質、状態など人間以外の外部世界の様相をも把握しているのである。

キーワード：猫；慣用句；メタファー；メトニミー；意味拡張

摘 要

本文运用认知语义学的理论和方法,研究日语中的“猫”惯用句。通过对“猫”惯用句的字面意到惯用意的意义扩展过程进行详细分析,证明在隐喻、转喻的作用下,两者之间可以建立起合理的联系。继而进一步探讨“猫”惯用句意义形成过程中的意义扩展机制,试图以此了解日本人如何认识人类自身,以及如何把握外部世界。

本文的构成如下所述。

第一章介绍了关于惯用句的研究动态,了解了迄今为止人们研究的一些问题,明确本文的研究视角,继而说明本研究的目标、方法和意义。

第二章根据认知语义学隐喻的相关理论,以隐喻发生的基础“类似性”为分类基准,把在隐喻作用下意义发生扩展的“猫”惯用句大致分为“基于五感类似的状况”,“基于性质类似的状况”,“基于推论类似的状况”,“基于构造类似的状况”。同时对此分别进行实例分析,解读惯用句的字面意到惯用意的意义扩展过程,并探讨在意义扩展过程中具体涉及到了哪些隐喻机制。

第三章以认知语义学转喻的相关理论为理论基础,依据转喻成立的基础,把在转喻作用下意义发生扩展的“猫”惯用句分为“基于时间上邻接关系的状况”,“基于原因—结果关系的状况”,“基于部分—整体关系的状况”。同时列举典型例句,分析惯用句的字面意到惯用意的意义扩展过程,并考察在意义扩展过程中所涉及到的转喻机制。

第四章是本文的结论。“猫”惯用句的惯用意是在隐喻、转喻的作用下形成的,其字面意和惯用意是由基于隐喻,转喻的意义扩展而联系起来的。其次,正如“猫”惯用句的意义形成过程中所涉及到的意义扩展机制所示,日本人通过猫的外形、性质、行为、本能、乃至人类对猫所采取的行为、猫鼠关系等,来认识人类自身的生理、性格、行为、能力、交际等人类在各个方面的特点。不仅如此,日本人还由此把握了有否效果,有否可能等不明确、不可能直接捕捉的抽象概念,乃至事物的性质、状态等人类以外的外部世界的状况。

关键词: 猫 惯用句 隐喻 转喻 意义扩展

厦门大学博硕士论文摘要库

目 次

第一章 序論	1
1.1 問題の提起	1
1.2 先行研究と本研究の立場	2
1.2.1 慣用句の意味変化に関する研究	2
1.2.2 慣用句の意味拡張に関する認知的研究	4
1.2.3 猫の慣用句に関する研究	5
1.2.4 先行研究の問題点と本研究の立場	6
1.3 研究対象	7
1.3.1 慣用句の定義	7
1.3.2 慣用句の選定基準	8
1.3.3 猫の慣用句の定義と選定基準	9
1.4 研究方法	10
1.5 研究意義	11
第二章 メタファーと猫の慣用句の意味拡張	12
2.1 メタファーとは	12
2.1.1 初山に代表される基盤重視の立場	12
2.1.2 Lakoffに代表される写像重視の立場	14
2.1.3 まとめ	15
2.2 メタファーを介した意味拡張	16
2.2.1 五感の類似性に基づく場合	16
2.2.1.1 視覚の類似性に基づく場合	17
2.2.1.2 聴覚の類似性に基づく場合	18
2.2.1.3 触覚の類似性に基づく場合	19
2.2.2 性質の類似性に基づく場合	20
2.2.3 推論の類似性に基づく場合	22
2.2.4 構造の類似性に基づく場合	24

2.2.4.1	行動と効果のパターン	26
2.2.4.2	行動と状況のパターン	29
2.2.4.3	双方関係のパターン	31
2.3	まとめ	33
第三章 メトニミーと猫の慣用句の意味拡張		36
3.1	メトニミーとは	36
3.1.1	糸山に代表される関係重視の立場	36
3.1.2	Kövecses&Radden に代表される領域重視の立場	39
3.1.3	まとめ	40
3.2	メトニミーを介した意味拡張	41
3.2.1	時間的隣接関係に基づく場合	41
3.2.2	原因—結果の関係に基づく場合	41
3.2.3	部分—全体の関係に基づく場合	43
3.3	まとめ	44
第四章 結論		46
4.1	本研究のまとめ	46
4.2	今後の課題	48
参考文献		49
謝辞		52

目 录

第一章 序论	1
1.1 提出问题	1
1.2 先行研究与本文的研究视角	2
1.2.1 关于惯用句意义变化的研究	2
1.2.2 关于惯用句意义扩展的认知研究	4
1.2.3 关于“猫”惯用句的研究	5
1.2.4 先行研究的不足与本文的研究视角	6
1.3 研究对象	7
1.3.1 惯用句的定义	7
1.3.2 惯用句的范围界定	8
1.3.3 “猫”惯用句的定义和范围界定	9
1.4 研究方法	10
1.5 研究意义	11
第二章 隐喻与“猫”惯用句的意义扩展	12
2.1 关于隐喻	12
2.1.1 以艸山为代表的重视基础的观点	12
2.1.2 以 Lakoff 为代表的重视映射的观点	14
2.1.3 小结	15
2.2 隐喻作用下的意义扩展	16
2.2.1 基于五感类似的状况	16
2.2.1.1 基于视觉类似的状况	17
2.2.1.2 基于听觉类似的状况	18
2.2.1.3 基于触觉类似的状况	19
2.2.2 基于性质类似的状况	20
2.2.3 基于推论类似的状况	22

2.2.4 基于构造类似的状况.....	24
2.2.4.1 行动与效果模式.....	26
2.2.4.2 行动与状况模式.....	29
2.2.4.3 双方关系模式.....	31
2.3 小结.....	33
第三章 转喻与“猫”惯用句的意义扩展	36
3.1 关于转喻	36
3.1.1 以 昀山为代表的重视关联性的观点.....	36
3.1.2 以 Kövecses&Radden 为代表的重视领域的观点.....	39
3.1.3 小结.....	40
3.2 转喻作用下的意义扩展	41
3.2.1 基于时间上邻接关系的状况.....	41
3.2.2 基于原因—结果关系的状况.....	41
3.2.3 基于部分—整体关系的状况.....	43
3.3 小结.....	44
第四章 结论	46
4.1 研究总结	46
4.2 今后的课题	48
参考文献	49
致谢	52

第一章 序論

1.1 問題の提起

認知意味論では、言葉の意味を、言語主体としての人間が世界を認識し、理解するプロセスの中で積み重ねられた経験に基づき、生まれたものとして捉えられ、更に、外界認識の産物である言葉には、人間の現実世界に対する捉え方が反映されていると考えられる。この観点からすると、言語表現の一形式としての慣用句を考察することを通して、人間がどのように世界を把握するかを窺うことができる。

日本人の日常生活で愛用されている様々な慣用句には、特に動物イメージの使用された慣用句は数多く見られる。その中で、猫は動物慣用句の中に頻繁に登場するイメージとして見過ごすことができない。猫は長期にわたって日本人に親しまれ、日本人の心の中に特殊な位置を占めた動物なのである。日本人は猫と生活を共にするうちに、その外見、習性、行動を観察し、認識することにより、多くの経験的知識を積み重ねてきた。そのような経験に基づき、人々は、豊富な想像力及び連想力を働かせ、猫に関する経験知識を用い、ほかの物事や人間自身を喩える慣用句を数多く創った。猫の慣用句を考察し、日本人が猫に関連する様々な知識を通して、人間自身且つ外部世界を如何に捉えているかということが分かると思われる。

一方、慣用句の意味について、慣用句は個々の構成要素を足し合わせた意味（字義通りの意味）から、句全体の意味（慣用的意味）を導けない、または推測し難いという性質を備えている。それがゆえに、従来、伝統言語学の見方では、慣用句の字義通りの意味と慣用的意味は全く恣意的な関係に位置付けられたのであり、尚且つ、慣用句の意味の成立に関しては、解釈不可能であるとされていた。

しかしながら、ここ数年来の認知意味論の研究によると、慣用句の慣用的意味は字義通りの意味とは概念上の繋がりがあるのみならず、その意味の成立は人間の認知能力と経験的知識とは深く関わっている。尚且つ、慣用的意味の成

立には、メタファー、メトニミーなどが重要な認知プロセスとして、大きな役割を果たしている。従って、認知意味論におけるメタファー、メトニミーに関する理論を援用し、慣用句の字義通りの意味と慣用的意味との乖離に関して合理的に解釈することが可能になっている。

要するに、本研究は日本語における猫の慣用句を研究対象に、その意味拡張に目をつけ、その字義通りの意味から慣用的意味へと意味拡張するプロセスを解明することを通じて、猫の慣用句の意味の成立がメタファー、メトニミーによって動機づけられており、その字義通りの意味と慣用的意味の関係をメタファー、メトニミーによる意味拡張として捉えることができることを裏付けようとする。更に、猫の慣用句の意味の成立には具体的にどのような意味拡張の仕組みが関わっているかを検討し、それらの意味拡張の仕組みから窺える日本人の人間自身且つ外部世界に対する捉え方をも考察する。

1.2 先行研究と本研究の立場

1.2.1 慣用句の意味変化に関する研究

日本において、伊藤（1999）は『慣用句の具象性についての一考察』の中で、身体部位語を構成要素に持つ慣用句を考察対象に、慣用句の具象性と慣用的意味との関係について検討している。

伊藤は、「慣用句の具象性」とは「慣用句の中でそれぞれの構成要素が、その文字通りの意味により表している事柄」^①と定義している。

伊藤は慣用句の具象性を＜身体部位の状態変化＞、＜身体部位の特徴＞、＜身体部位の動きを封ずる＞、＜身体部位の不快な状態＞、＜身体部位の温度の変化＞、＜身体部位の位置の変化＞、＜身体部位の開閉＞、＜身体部位の清濁＞という8種類に分けて、それぞれの慣用的意味との関係について検討している。伊藤の提示している「慣用句の具象性と慣用的意味の関係」^②は以下のようによまとめることができる。

a. 身体部位の状態変化＝感情の変化

^① 伊藤真. 慣用句の具象性についての一考察. 言語文化論集 [J]. 1999 (51). 第 97 頁.

^② 伊藤真. 慣用句の具象性についての一考察. 言語文化論集 [J]. 1999 (51). 第 99–113 頁.

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.